

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19330141

研究課題名（和文） 社会的文脈における自己と他者についての感情推論

研究課題名（英文） Emotion inferences for self and other in social context

研究代表者

村田 光二（MURATA KOJI）

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：40190912

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：自己の感情推論、他者の感情推論、インパクトバイアス、自発的推論、投影、後知恵バイアス、後悔

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、自己の感情についての推論と他者の感情についての推論の両者を統一的に論じる理論的枠組みを作るため、実験に基づくそれぞれの実証的証拠を得ることである。自己の感情推論については感情予測研究の枠組みを利用して、将来の自己の感情を推論する際のバイアスとそれを除去する方法を明らかにする。他者の感情推論については社会的文脈情報から自発的に他者の感情を推論する過程とそれを制約する条件を明らかにする。その過程で自己の感情状態が利用（投影）されやすい傾向を示すとともに、投影を低減する条件を明らかにする。加えて、感情推論が社会的行動に結びつく過程の検討を開始する。

2. 研究の進捗状況

（1）自己についての感情推論研究

まず商品の選択場面を用いた実験を行った。その1つでは、選択を変更できない場合の方が可能な場合よりも選択後の満足感は

むしろ高まることを示唆する結果を得た。また、選択肢が少数の場合の方が多数の場合よりもむしろ選択後の満足感が高いことについても検討した。これらの結果については、選択に伴う後悔感情およびその予測の問題とも関連づけて検討を行った。

次に、レポート課題を用いた現場実験を行った。この一連の研究では、課題遂行後の感情を予測させる条件を設けて、感情予測が課題遂行の動機づけを高めるかどうかを検討し、一部で動機づけ機能を示す結果を得た。この研究では、遂行後に得た結果を事前に予測できたかどうかをたずねて、後知恵バイアスの問題も併せて検討を行っている。また、感情予測のインパクトバイアスが生じることも確認した。

（2）他者についての感情推論

記述文から自発的に他者の感情状態を推論するかどうかについて、自発的特性推論の実験パラダイムを用いて検討を行った。再認パラダイムだけではなく、再学習パラダイムを用いて成果を得てまとめたものが、学会誌

論文として掲載される見込みである。この一連の研究では、音声情報を用いて実験を行い、より感情が推論されやすい形で検討を行っている。他者についての感情推論が共感性や視点取得によって推進されるのかどうか、自己中心的な投影を行う条件はどういったものか引き続き検討を行っている。

(3) 理論的検討

自己と他者の感情推論を統合する理論モデルを提唱するために、まず感情予測研究についての研究のレビューを行った。この論文は認知心理学会が監修したシリーズの本の1章として出版される予定である。現在は、特性についての対人認知のモデル、ステレオタイプ化のモデルと関連づけながら、一時的な状態の推論モデルについての検討を開始している。

3. 現在までの達成度

やや遅れている

スタート時点で利用を希望していた常時利用可能な実験室を学内に確保できなかったため、実験のたびに共用の部屋を手配して利用している。そのため、実験室実験に基づく研究の進行が遅れている。実験内容については、当初の計画通りには実行できなかったものもあるが、他方でその後計画に追加されて成果を生み出しているものもある。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度に可能なことを吟味した上で、焦点を絞って実験を実施していく。他方で、理論的検討を充実させたいと考えている。

計画の進行に影響を及ぼすのは外的要因であり、社会心理学会の大会担当常任理事の仕事、心理学会の機関誌編集委員会の副委員長の仕事、さらには所属する研究科の管理運営の仕事などが問題点として考えられる。関

係諸方面と調整することで、対応策を講じた。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計3件)

小森めぐみ・村田光二 状況情報からの自発的感情推論 - その生起と視点取得の役割の検討 - 実験社会心理学研究, 50 (印刷中), 2010. 査読有

道家瑠見子・村田光二 後悔の過大推測: ネガティブ・フィードバック直後と時間経過後の予期的後悔と経験後悔 実験社会心理学研究, 48(2), 150-158, 2009. 査読有

〔学会発表〕(計21件)

桑山恵真・村田光二 インパクトバイアスの低減方略の検討 - 心理的免疫システムの考慮によってインパクトバイアスは低減するか? 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回大会合同大会, 2009年10月11日, 大阪大学吹田キャンパス

村田光二・桑山恵真 レポート課題における感情予測 課題遂行との関係を探る 日本心理学会第73回大会, 2009年8月26日, 立命館大学衣笠キャンパス

〔図書〕(計1件)

村田光二 感情予測 村田光二(編著)『現代の認知心理学6 社会と感情』北大路書房, 2010(印刷中), 121-146. 査読無